

報告事項

平成28年度～平成30年度3ヵ年計画『JA東京グループ自己改革の実践～農業者の所得増大と都民理解の醸成～』の取り組み報告

JAIにしま自己改革プラン(工程表)平成28～30年度

JA経営理念

1. 安心・安全な農産物を消費者に提供するため、環境に配慮した農業の推進に努め、農産物の流通・販売体制の充実拡大を図り、地産地消に取り組みます。
2. 組合員・利用者が必要とする、魅力ある商品・サービスを提供することにより、「生涯お付き合いいただける組合」を目指します。
3. 各種イベントを通じた、若年層、女性層の新たなJAファン獲得により、組合員加入を促進します。
4. 役職員のコンプライアンスを徹底することにより、経営の信頼性を高め、透明で健全性のある組合を確立します。

ビジョン・目指す姿

わたしたちは、組合員・地域の皆さまが「笑顔」で暮らせる環境づくりに努めるとともに、より良い相互の信頼関係を築きながら地域の発展に貢献してまいります。

3年後の成果目標

「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、①持続可能な農業実現と②豊かでくらしやすい地域社会を実現し、③協同組合としての役割の発揮をするJA。

販売品取扱高 対前年比1%増

基本目標Ⅰ 地域農業の振興を踏まえた農業者の所得増大

工程表

1. 都市農業の特徴を活かした多様な販路による販売力強化

具体的重点施策	業績評価指標・目標値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
---------	------------	--------	--------	--------

(1) 直売所を拠点とする販売力強化

①直売所の課題の明確化と改善取り組みの実施	直売所運営委員会と共に課題改善を実施	電子図書館を活用して、直売所出荷野菜の改善の取り組み	日常的な改善の取り組み	→
取組事項	福生直売所では定年退職後の新しい出荷者が増え、仲間づくりの輪を展開してきました。羽村直売所では、照明環境を抜本的に改めて、陳列された野菜の見映えが良くなるような照明の改善に努めました。瑞穂直売所は、改善を進めるための作業部会を1年間で4回開催し、優先して取り組むべき課題の整理をすすめました。			

②直売所販売高・来客数の増加	対前年比1%増(販売高)	ポイントカード導入 品揃えの調査	ポイントカード・品揃え の評価	反復継続
取組事項	異常気象により直売所に出荷される野菜の点数が大幅に減少した一年でした。出荷野菜の点数減少に比例してポイントカード発行が減少し、来客数の増加にはつながりませんでした。			

③直売所出荷者組織の運営支援と直売所出荷に伴う営農指導	運営委員会 月1回開催	目揃え会の開催、出荷 品質維持の取組み		→
取組事項	各地区で月一回の直売所運営委員会の開催ができました。この会議の中で、出荷野菜の品質維持のための取組みとして、各種講習会などの開催ができました。			

(2) 地域ブランド・6次産業化等、特産品への取り組み

①東京狭山茶ブランド定着への協力	「JA東京アグリパーク」を活用	各お茶生産販売者と協力して、最低1品目の販売に取り組む	販売額の点検	試飲コーナーの検討
取組事項	多くの来場者があり、東京で茶葉やシクラメンが生産されていることを知らない来場者が多く、JAIにしま管内の特産物のPRにつながりました。			

②農商工連携による加工品開発の検討	管内の漬物業者と連携し、白菜の漬物販売を検討	漬物業者との調整・打ち合わせ	商品化への開発	商品化への評価
取組事項	平成29年度は、冬期に生産される農産物が異常に少なかったため、漬物への加工の取り組みを秋口に開始したものの、継続が困難になりました。			

JAにしたま自己改革プラン(工程表)平成28~30年度

(3) 学校給食等、新たな販路の拡大

①学校給食使用野菜の原料に対する地場産野菜の割合を高める	学校給食提供野菜5%増	給食担当者・出荷者との調整	供給量の検討2%増	供給量の検討5%増
取組事項	学校給食へ通年出荷することができたことで、集荷量を伸ばすことができました。また、生産者にコマツナの通年栽培の協力依頼し、出荷者数を増加することができました。福生市学校給食食材の職員による搬入支援、出荷用コンテナ・運搬車両の購入を行い、学校給食出荷の支援ができました。			
②給食出荷者の生産力向上	給食出荷者の供給力の把握	調査把握の継続実施	→	
取組事項	新規就農者の中で学校給食へ野菜を出荷できる農家を育成してきました。生産者の個々と聞き取りを常時していますが、全員集まる機会をつつた会議等を重ねて、給食供給量を調査把握することが課題となります。			
③量販店との調整	既取引量販店との受入農産物の販売状況確認	出荷情報や品質状況、消費者からの声を生産者へつなげる	→	
取組事項	出荷内容や品質状況について、量販店売り場担当者と打ち合わせを重ねています。出荷者が大量に生産できた農産物を地場産コーナーだけでなく、一般野菜売場での販売を認めてもらう取り組みもできました。今後も安定的な供給体制を生産者とともに調整していきます。			
④新たな販売ルート開拓	園芸用花類の販路開拓	東京オリンピックを踏まえた需要動向調査の実施	→	
取組事項	東京オリンピックを見据えて、東京産の花や植木を使用するよう東京都へ要望をいたしました。また、耐暑性のある花壇苗に取り組むためJAが支援し、試作に栽培農家が行いました。			

2. さらなる都市農業振興に向けた取り組み

(1) 営農指導の強化

①営農指導担当を増員する	営農指導員増員2名	→ 指導員増員2名		
取組事項	平成30年4月入職予定の職員の中で農学部卒に内定通知を出しました。			
②正組合員の営農情報を蓄積する	地区担当を通しながら正組合員の営農情報を把握する	推進担当の営農情報収集の教育訓練	情報収集活動の実践	→
取組事項	推進担当が正組合員宅への訪問において安定的な巡回も積み重ねてきましたが、営農情報までの汲み上げは、なかなか行き届きませんでした。今後は、担い手の情報把握に努めていきます。			
③直売所出荷を念頭に置いた巡回活動	直売所出荷農家の営農情報把握	相談巡回	→	
取組事項	農産物の生育状況を生産者とともに確認していきま。悪天候が続いた平成29年度については、いかに安定的に農産物が収穫できるか工夫(ビニール被覆などの対策)について、出荷者と話し合いました。			

(2) 食の安全・安心対策

①生産履歴記帳徹底	直売所出荷者記帳率100%	生産履歴記帳研修会を積み重ねる	→	
取組事項	羽村地区は、100%の生産者が生産履歴の記帳に取り組んでいただいています。他地区の記帳率をあげることが課題となります。今後も生産履歴記帳研修会を取り組んでいきます。			
②エコ農産物認証件数の増加	認証件数45件(新規)	15件	15件	15件
取組事項	平成29年度においては10名65件の認証件数があり、年間目標を上回る実績となりました。			
③ベジベジを活用したエコ農産物の普及、啓蒙活動	東京エコ農産物の安定供給	出荷者と調整し安定的な体制づくりを実践	→	
取組事項	東京都エコ農産物の宣伝を行いました。また、エコ農産物と商品入替を行った購買品との関連させた販売方法へ工夫しました。			

(3) 未利用農地の有効活用

①農地活用実態の把握	調整区域の耕作状況把握	行政・農業委員会との調整	→	
取組事項	行政と連携・調整し、未利用農地を新規就農者へ利用権設定までつなぐことができました。			

②耕作放棄地の活用対策実施	地権者との相談	相談活動	→
---------------	---------	------	---

取組事項	瑞穂町の未利用農地をブルーベリーの圃場として当組合で使用するため検討を行い、地区農業委員会との間で調整し土地利用の対応を進めていきます。		
-------------	--	--	--

③生産緑地の保全	相続発生時に生産緑地の減少を食い止める相続体制づくり	事前相続相談の打ち合わせ会を実施	→
----------	----------------------------	------------------	---

取組事項	事前相続相談会を実施することで、相続発生時に生産緑地の減少を止める相続体制づくりに努めました。新しい生産緑地制度(下限面積や特定生産緑地)を職員同士で理解を深めながら、相続相談にのることができました。		
-------------	--	--	--

(4)都市農業振興に向けた農政活動

①組合員との意見交換実施	組合員懇談会 年1回開催	組合員懇談会を通して、農政活動の普及を図る	→
--------------	--------------	-----------------------	---

取組事項	平成30年1月・2月に組合員懇談会を開催しました。正組合員172名の参加があり、JAIにしま自己改革の取り組み状況や改正農協法に基づく役員を選任方法、都市農地保全の制度改正による生産緑地制度について説明をしました。内容については、非常にわかりやすかった・生産緑地制度の内容を聴けて良かったとの声が寄せられ、農政活動の普及を図ることができました。		
-------------	--	--	--

②部会の意見交換実施	組合員懇談会 年1回開催	農政活動につながる意見集約に努める	→
------------	--------------	-------------------	---

取組事項	各生産部会活動の支援とJAの事業活動・農政活動に生産者の意向を踏まえるため、各部会の役員会や総会、視察研修において、部会内での課題など意見交換を活発に行う機会を持ちました。		
-------------	--	--	--

③調整区域保有JAとの意見交換実施	意見交換会 年1回開催	市街化調整区域に関する意見集約	→
-------------------	-------------	-----------------	---

取組事項	市街化調整区域における意見交換会の開催に向けて検討するも近隣JAと開催するまでには至りませんでした。		
-------------	--	--	--

(5)都市農業振興基本法制定を踏まえた行政・農業委員会等とのさらなる連携

①情報交換会の実施	行政・農業委員会と情報交換会 年1回開催	情報交換会を通して都市農業基本法の浸透を図る	→
-----------	----------------------	------------------------	---

取組事項	農業委員会と連携しながら、特定生産緑地制度について理解を深めるための講演会を共催しました。多くの参加者から下限面積の要請が必要との意見があり、行政への要請活動につながりました。		
-------------	--	--	--

3. 組合員・都市農業を支えるJAの総合事業の拡充

(1)農業を支える新たな仕組みづくり

①JAの総合性を発揮する情報連携の仕組みを構築し実施	組合員ニーズを把握できる職員体制	ふれあいカードの様式の検討	ふれあいカードを活用しての組合員ニーズの把握	個別の対応
----------------------------	------------------	---------------	------------------------	-------

取組事項	定期的な訪問を行う中で、「ふれあいカード」の記入を継続しています。組合員ニーズや意向を組みあげる取り組みは、更なる継続が必要です。「ふれあいカード」に記入されている項目確認なども今後取り上げていきます。			
-------------	---	--	--	--

②農業用機械の共同利用の取り組みと耕作支援仕組みの検討	共同利用可能な農業用機械の充実 耕作支援の仕組みの検討	共同利用可能な機械の調査	→
		仕組み・検討	→

取組事項	草刈機、管理機とも安い利用料金で使用することが出来利用者から喜ばれています。		
-------------	--	--	--

③生産資材価格の引き下げのための取り組み	農業用資材・肥料の低価格提供	予約購買時に正組合員向けに低価格販売で実施	→
----------------------	----------------	-----------------------	---

取組事項	ペレット鶏糞の仕入数量を調整しながら、一括大量仕入れをし、価格の低減化を図り、予約購買で正組合員向けに低価格で販売しました。また、春秋予約販売では、秋肥・春肥とも価格の低減に努め、組合員向けに低価格で多くの肥料を供給することができました。		
-------------	---	--	--

JAにしたま自己改革プラン(工程表)平成28~30年度

(2) 農を通じたサービスの提供

①『収穫体験付定期積金』等、農業関連商品の実施	『収穫体験付定期積金』の継続実施	対象顧客を広げて取りまとめ・実施		→
取組事項	さつまいも収穫体験付定期積金は、前年度と比較して25件の新規申込がありました。今後も食農体験の一環として、地域に根付くよう継続実施をしていきます。大好評であったベジタブル定期貯金では、直売所利用券50万円分を発行し、直売所の販売促進につなげました。			
②営業店での地域農業情報発信支店でのアイデアによる実施	支店単位で農を通じたイベントの開催	支店単位でアイデアを発揮したイベント開催		→
取組事項	支店職員の取り組みにより、羽村地区(とうもろこし)・福生地区(落花生)・瑞穂地区(花の寄せ植え)・元狭山地区(冬野菜)で農業体験イベントを企画しました。瑞穂地区は天候の不順により開催できませんでした。支店職員の奮闘により、参加者から好評を得られるイベントを開催することができました。			

基本目標Ⅱ 地域貢献活動による住民理解の醸成

工程表

1. 食料・農業・地域・JAの理解醸成に向けた取り組み

具体的重点施策	業績評価指標・目標値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
(1) 多様な広報手段を活用した情報発信機能の強化				
①地域紙への記事掲載の充実	地域紙への記事掲載月3回	記事掲載 月3回	記事掲載 月3回	記事掲載 月3回
取組事項	地域紙を活用しながら、JAにしたまの地域の貢献活動、地域の農業振興などの取り組み情報を地域住民にお知らせすることができました。これからも地域紙と協力連携を図っていきます。			
②HP(ホームページ)の改善	アクセス状況を把握し改善する	月別アクセス件数の把握・分析	アクセス増加につながる編集・見直し	→
取組事項	「地域の話題」を年間37件、「キャンペーン等情報」年間25件の掲載をいたしました。毎月のアクセス件数では、残念ながら前年を下回りました。自己改革関連等のバナーを設置し改善を行うなど、今後も利用者目線に立ったホームページを構築し、アクセスの増加につなげていきます。			

(2) 都市農業の多面的機能を発揮した理解の醸成

①農業祭・共進会、収穫体験等の実施、農ウォークなど各地区農業委員会等への支援	農業祭や支店ごとの収穫体験などの実施、農業委員会が主催する農ウォークなどを支援	JA職員による協力体制の確立		→
取組事項	参加した地域住民に対して、JAが協力している姿をアピールすることができました。また、各市町ごとに実施している農畜産物品評会では、日頃の営農の成果を地域住民に知ってもらいたい機会となり、都市農業のレベルの高さをPRできました。			
②JAグループ連携イベント実施(東京農業フェア等)	JAグループ連携イベント実施(東京農業フェア等)	東京都農業祭や東京農業フェアへの積極的参加		→
取組事項	「味わいフェスタ」では、管内の花を展示し会場を賑わせました。東京農業フェアは、今年度からアグリパークで4日間の開催となり、PR期間を長く設けることで、より深く東京農業を都民に知ってもらうことができました。			
③新たな企画の検討実施	新JA東京南新宿ビルへ農畜産物等の出荷・PR	西多摩の農畜産物をPRする企画の策定	出荷・PRの実施	→
取組事項	「来て見て瑞穂育ちのシクラメン」のイベントにより、瑞穂町のシクラメン街道を宣伝することができ、管内のシクラメンは良質で価格も安いとの評価がされました。「手もみ茶を見る！飲む！楽しむ！」では、東京狭山茶の手もみ実演とあわせて試飲・販売を行い、東京狭山茶のPRができました。野菜については、毎月安定的な出荷を図るように取り組むことができました。			

2. 豊かでくらしやすい地域づくり

(1) JAくらしの活動の積極的な展開

①くらしの活動実施事業の点検	くらしの活動年間実施内容をまとめ、再編成	実施事業の整理・まとめ	実施事業の反省	年間事業の再編成
取組事項	ミニディサービスについては、地域の女性部の皆さんが力を合わせて高齢者を支える事業展開をしています。安定的な参加者があり、参加者からは毎回参加するのが楽しみだと高い評価を得ています。			
②協同活動を活性化し、女性組織の活性化を図る。	女性部員が集まりやすい環境づくり	女性部員が集まりやすい環境づくり		→
取組事項	女性部員が集まりやすい環境にするための特性を活かしたイベントが各地区で開催され、仲間づくりを展開することができました。			

JAIにしま自己改革プラン(工程表)平成28~30年度

③書道教室等の実施	書道教室の充実	書道教室の継続開催 (年40回程度) (月1回の展示)	書道教室の継続開催 (年40回程度) (月1回の展示)	書道教室の継続開催 (年40回程度) (月1回の展示)
		開催店舗の1増		

取組事項 開催店舗を増やすことができ、参加児童の増加を図ることができました。参加児童の書を会場内に展示することにより、児童間で展示に向けて丁寧に書こうという励みにつながることができました。併せて段・級位向上をめざす児童が増えてきました。保護者からは、子どもが普段書く字が丁寧になったと声があがっています。

④支店協同活動の計画・検討	支店協同活動の計画・検討	支店活動の点検	支店活動の取り組み・実践	→
---------------	--------------	---------	--------------	---

取組事項 支店協同活動を通じながら、職員も農業・農産物を身近に感じるようになってきました。

⑤震災時対応等、災害協定の策定	大規模災害に備えた対応	JAグループと連携し、災害に備えた取り組み	→	→
-----------------	-------------	-----------------------	---	---

取組事項 JAグループにおける災害時帰宅困難者支援に関する協定に基づいて災害時帰宅支援ステーションの「のぼり旗」の使用方法について内部体制を構築し、大規模災害に備えた対応取り組みをすすめました。

(2) 協同組合組織等との連携

①生協連などJAグループの取り組みへの協力	JA東京グループの一員として生協連などと連携に取り組む	JA東京グループの取り組みに協力する	→	→
-----------------------	-----------------------------	--------------------	---	---

取組事項 JAグループとしての生協との連携活動は、本年度も管内での実施はありませんでした。管内の生協出荷農家から得た情報を次年度に繋げる取組みをすすめます。

基本目標Ⅲ 組合員と共に歩む組織づくり

工程表

1. 組合員の「アクティブ・メンバーシップ」の確立

具体的重点施策	業績評価指標・目標値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
---------	------------	--------	--------	--------

(1) 多様な組織基盤強化に向けた取り組み

①青壮年部の活動支援と活性化	青壮年部の将来性の検討	従来取り組んでいる活動の計画と継続	→	→
		構成メンバーの参加者意識を高める	→	→

取組事項 瑞穂町に新規就農者が増えてきた中で、青壮年部の仲間となるような取組みを展開することができました。部員自ら積極的に青壮年部活動に対して意見が出てきています。

②女性部の活動支援と活性化	女性部の将来性の検討	従来取り組んでいる活動の計画と継続	→	→
		構成メンバーの参加者意識を高める	→	→

取組事項 旅行や都女性協との連携活動など従来取り組んでいる活動を中心に継続して取り組むことができました。

③生産部会の活動支援と活性化	生産者部会の将来性の検討	従来取り組んでいる活動の計画と継続	→	→
		構成メンバーの参加者意識を高める	→	→

取組事項 各生産部会で取り組んでいる事業については、定期的で開催することができ、より専門性の高い事業や情報収集が行えたという意見が寄せられました。部員の参加者意識を高められるような活動を工夫していきます。

④資産管理部会の活動支援と活性化	資産管理部会の将来性の検討	従来取り組んでいる活動の計画と継続	→	→
		構成メンバーの参加者意識を高める	→	→

取組事項 税制や資産管理実務等の研修会を実施し、会員の増加を図って、部会活動の活発化につなげました。

(2) 都市農業を支える准組合員との関わり強化

① 准組合員を農業応援団として位置づけ	准組合員JA事業利用効果で地域農業を支えている認識づくり	准組合員へのJA活動事業の周知			→
取組事項	JAが取り組む事業を周知することで「JA組合員加入のご案内」(チラシ)の作成に取り組みました。また、ホームページにも掲載しました。				

(3) 組合員学習活動を通じたJA帰属意識の促進

① JAが取り組んでいる業務の紹介	JAが取り組んでいる業務の紹介	部会の会合などで公表していく			→
取組事項	昨年度に引き続き、部会や直売所、女性組織の会合において、農機具の点検・修理や廃棄ビニールの回収・処分などJAIにしまの指導経済部門の業務、企画旅行や貯金・融資まで日頃の業務について紹介しました。				

② 組合員学習活動の実施	組合員学習活動の開催	部会開催時に地域農業やJA理念の情報提供			→
取組事項	生産緑地法の改正研修会、自己改革の取組状況説明会へ多くの組合員が参加し、熱心に話を受け止めていました。今後、特定生産緑地制度の導入の際には、管内農地の保全につながることに結びつけていきます。				

(4) 農協運動者としてのJA役職員づくり

① 教育訓練計画の着実な実施	教育訓練計画に基づいた、職員の履修	研修参加の把握・履修			→
取組事項	研修については、計画通り実施できました。各種の資格試験についても、職員が積極的に受験しました。受講者の中では、研修内容を自分自身で吟味して同一職場の職員へ伝達することが大切だと判断した情報を丁寧に伝えるような職場内の雰囲気生まれてきました。				

② 協同組合の理解のための研修の実施	協同組合理解のための研修を開催	年1回開催	年1回開催	年1回開催	
取組事項	内部で協同組合理解のための研修会を3回に渡り開催しました。職員が協同組合組織で働く中で、地域の農業の歩んできた姿について職員が学び、協同組合組織の理解を深めることができました。				

③ 人事労務基本方針に照らした職場運営の定期点検	定期的職員アンケートの実施	アンケートの実施	アンケートの評価・確認	アンケートの実施	
取組事項	職員自身と仕事がマッチするような、また満足のでられるようなイメージづくりにアンケートが結びつく難しさはありますが、職員の意向掌握につながるアンケートを継続していきます。				

基本目標Ⅳ JAI自己改革の実践を支える経営基盤の強化

工程表

1. JA経営基盤の強化

具体的重点施策	業績評価指標・目標値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
---------	------------	--------	--------	--------

(1) 地域に即したJA経営基盤強化

① 要員や人材配置を考えた採用計画と職員の人事希望調査の実施	要員や人材配置を考えた採用計画	計画の継続実施 人事希望の継続調査			→
取組事項	今年度の採用において農学部出身者を2名採用内定することができました。職員人事希望調査では必ずしも本人の希望に合うような人事配置とはなりません、職員の要望を聞き入れる体制の一助となっています。				

② 施設整備長期計画の策定	本店等の整備計画の検討	継続的な検討			→
取組事項	東京オリンピック終了まで、大規模な整備計画は見送ることとしました。				

③ 営農部門の強化	I-2-(1) 営農指導機能の強化と同様				
取組事項	平成30年4月入職予定者の中で農学部卒業の2名に内定通知を出しました。				

JAにしたま自己改革プラン(工程表)平成28~30年度

④支店に相続や事業承継について相談できる職員を育成する	相談できる職員の育成	相続や事業承継について支店職員を対象に情報提供や事例学習会を実施		
-----------------------------	------------	----------------------------------	--	--

取組事項 今年度は、相続実務について資産管理課職員向け・LA向けの研修を実施しました。

(2)JAの業務執行体制等の強化

①農協法改正に沿った役員選任体制の構築	農協法改正に沿った役員選任体制の構築	構想を策定し理事会で調整	組合員懇談会を通して協議	役員候補者の検討
---------------------	--------------------	--------------	--------------	----------

取組事項 組合員懇談会を通して、改正農協法で求められている認定農業者が管内に少ないため、役員選任に実践的能力者として選任していく話し合いの場を持ち、理解を深めました。

②女性の参画目標と行動	役員への女性登用と女性総代15% 女性組合員の増加を目指す	女性理事2名選出・組合員組織への周知徹底・女性組合員加入促進活動		
-------------	----------------------------------	----------------------------------	--	--

取組事項 現在、女性理事2名を選出。女性総代は44名、総代の女性割合は10.2%であり、目標とする15%には至っていないため、次期選挙の課題となっています。女性組合員は134名の増加となりました。平成29年度に作成した「JA・組合員加入のご案内」のチラシを活用して、女性組合員加入促進を継続していきます。

(3)JA経営の健全性向上

①コンプライアンスマニュアルの整備維持	コンプライアンスマニュアルの整備維持	整備されたコンプライアンス・プログラムを全職員へ配布		
---------------------	--------------------	----------------------------	--	--

取組事項 コンプライアンスマニュアルを平成30年3月27日に全面改訂しました。個人情報の取扱いや労働関係法の改正を受けてこのマニュアルが改正され、職員へこれらの改正点の徹底を図っていきます。

②コンプライアンス遵守に必要な施策の実施	コンプライアンス研修会の実施	計画的な研修の開催		
		年2回開催	年2回開催	年2回開催

取組事項 「個人情報保護関係」と「不祥事未然防止関係」の研修会をそれぞれ開催しました。当組合の健全な経営を維持するため、今後も研修会を継続して開催し、コンプライアンス遵守の環境づくりを目指します。

③内部統制組織の充実運用	コンプライアンス委員会の開催による内部統制組織の充実運用	定期的開催		
--------------	------------------------------	-------	--	--

取組事項 コンプライアンス委員会でコンプライアンス・プログラムを作成し、また実効性のある実施を求められる自主検査チェックリストを全面的に見直し、職員へ周知徹底・内部統制の充実・強化を目指しました。

④内部監査の実施	自主検査と内部監査の実施	継続実施		
----------	--------------	------	--	--

取組事項 毎月の自主検査の実施と年度計画に沿った監査の実施により、内部統制の向上に努めました。

⑤事業継続計画等非常時対応の整備維持	大規模災害発生時の事業継続の対策	連合会と調整し、整備維持を図る		
--------------------	------------------	-----------------	--	--

取組事項 JAバンク東京信連と連携し、有事対応の実効性を高めるため、業務継続訓練を実施しました。

(4)相続・事業承継相談業務の位置づけの明確化

①農地を残せる相続相談業務	相談の手法を整理し、活動を行う	手法整理と勉強会の開催	活動展開 組合員学習会の開催	
---------------	-----------------	-------------	-------------------	--

取組事項 生産緑地制度について組合員に農地を残せる研修会を開催することができました。多くの組合員が参加し、新しい生産緑地制度などについて学習を深めることができました。

②「ふれあいカード」を活用した相談訪問活動	「ふれあいカード」の活用を図る	LAと連携した「ふれあいカード」の上手な活用		
-----------------------	-----------------	------------------------	--	--

取組事項 組合員の立場に立った相談活動が展開できるようなふれあいカードの活用までに、内容量が記載されていません。今後は、ふれあいカードの記載内容の充実を図るための点検も深めていきます。

③推進担当者による「ふれあいカード」への記載	「ふれあいカード」によるJA内の情報連携を整備する	「ふれあいカード」を活用して情報連携する仕組みづくり		→
------------------------	---------------------------	----------------------------	--	---

取組事項	農業者向けの有用な融資資金「みのり」「ゆとり」の情報提供を部署間で連携できる実績を挙げることはできました。今後は「ふれあいカード」を活用して「みのり」「ゆとり」の融資情報を必要とする組合員へ適切に提供していく仕組みをつくるように検討していきます。同時に、日常の組合員とのつながりを意識した訪問活動をしながら、情報連携できるような仕組みを高めていきます。			
-------------	--	--	--	--

④法律税務相談の開催	年12回開催	法律・税務相談の定期的開催		→
------------	--------	---------------	--	---

取組事項	年間を通して、各12回定期的に開催することができました。法律の相談を20件、税務の相談を25件を承りました。毎回一定程度の相談者が訪れていただき、弁護士・税理士へ相談している中で、相談者の声はおおむね安定した評価をいただいています。これからも定期的な開催を継続的に受け付け、組合員の悩みを解決できる場として提供していきます。			
-------------	--	--	--	--

2. 中央会・連合会によるJAの支援・補完機能の強化

(1) 中央会・連合会一体となった取り組み

①連合会取り組み情報を収集し、JAで活用する	連合会情報を収集し、JAにしたまへの活用策を検討	連合会情報の収集		→
------------------------	--------------------------	----------	--	---

取組事項	連合会の持っている情報を活用しながら、利用者に喜んでもらえるようなチラシ作成や記念品の贈呈をすることができました。利子補給の対象となる「みのり」は9件実績がありました。多くの組合員に利用いただけるように目指していきます。			
-------------	--	--	--	--

(2) 営農・経済事業

①連合会の開催するTAC研修会等を活用し、JATAC職員の育成を図る	TAC職員の育成	連合会主催の研修会へ参加		→
------------------------------------	----------	--------------	--	---

取組事項	営農指導に携わる職員を育成するため、研修に積極的に参加し、生産資材の特徴や病害虫診断の基礎的な知識の習得に努めました。			
-------------	---	--	--	--

②連合会の生産・流通・販売支援の内容を把握し、活用を図る	生産・流通・販売の整備	連合会支援内容の情報把握		→
------------------------------	-------------	--------------	--	---

取組事項	年間を通して担い手サポート事業を活用し、給食出荷用のコンテナ・車両、チラシ印刷費などの助成活用を図り、生産者へ貢献することができました。			
-------------	--	--	--	--

③連合会の生活づくりの諸提案を把握し、活用の可能性を検討、必要により実施する	連合会の生活づくりの諸提案の活用	活用可能性の検討		→
--	------------------	----------	--	---

取組事項	厚生連所属職員による健康講話、地場産野菜を使った料理教室を開催することができました。今後はさらに、連合会の活用を探っていきます。			
-------------	--	--	--	--

3. 自己改革の策定と着実な実践

(1) 自己改革の策定

①企画管理課を中心とした四半期毎の進捗管理	進捗管理の体制を整備する	定期的な工程表の管理と進捗検討会の開催		→
-----------------------	--------------	---------------------	--	---

取組事項	職員各層の出席のもと進捗状況を確認しました。年齢層を問わずに検討し、自己改革3年目につないでいきます。			
-------------	---	--	--	--

(2) 自己改革の着実な実践と進捗管理

①JA計画への反映	進捗検討を次の実践に活かす	進捗検討会の成果を翌年度のJA計画に反映していく		→
-----------	---------------	--------------------------	--	---

取組事項	組合員アンケート予備調査の結果分析も踏まえて、最終年度の重点施策に取り組んでいきます。			
-------------	---	--	--	--